

## デュッセルドルフ大学、リューネブルク大学と 学術交流協定を締結 海外協定校53校、ドイツの協定校11校に

本学は国際化推進のため、新規学術交流協定校の開拓を積極的に進めている。このほど、新たにドイツの2校の大学と協定を締結した。本学のドイツの協定校は11校となる。

### ■デュッセルドルフ大学

ドイツ西部に位置するノルトライン・ヴェストファーレン州の州都デュッセルドルフにある総合大学。医学部、数学・自然科学部、芸術人文学部、経営・経済学部、法学部の全5学部と40以上の学科からなる。中でも現代日本研究学科は600名を超える学生を有し、日本研究分野においてドイツ最大規模を誇る。

### ■リューネブルク大学

北ドイツのニーダーザクセン州の中心都市リューネブルクにある財団立の大学。教育学部、人文科学部、サステナビリティ学部、経済学部の4学部と30以上の研究所を有する。学生数は約9,000名。第二次世界大戦による被害を受けなかったため、美しい中世の都市景観が保たれている。



デュッセルドルフ大学



リューネブルク大学

## 英語学科「海外学修奨励賞短期研修」 (香港プログラム) 授賞式・報告会を開催

英語学科の「海外学修奨励賞短期研修」(通称「香港プログラム」)の授賞式と報告会が、3月28日に天野貞祐記念館大講堂で行われた。

前沢浩子英語学科長(当時)による挨拶ののち、10名の受賞学生の代表者たちが約30分間、流暢かつ力のこもった質の高い「英語」でのプレゼンテーションを実施。香港大学專業進修学院(HKU SPACE)での約1週間の研修の成果を披露した。同研修には工藤和宏准教授が同行した。

英語学科は、グローバルマインドを持った情報発信型のリーダーを育成することを目的に、選抜学生を海外に派遣している。2012年度に始まったこの授賞式・報告会は、今回で7回目の開催となった。

※海外学修奨励賞短期研修は、「獨協大学父母の会」の助成により実施されました。

受賞学生による  
スピーチ



全員で記念撮影

## クレアス開室式実施

3月28日、中央棟1階にオープンした自律学習支援スペース「CLEAS(クレアス)」の開室式が行われた。

犬井正学長は「クレアスが学生の主体的な学びをサポートする場として従来の施設と連携、協力を図りながら、本学の教育力の強化の柱となることを期待しています」と挨拶した。東孝博教育研究支援センター所長(※)は「クレアスは学生の自学自習環境として『カラー認証プリンタ』『発表ポスター等制作のための大判プリンタ』『マルチメディア工房』『グループ学習スペース』『CLEAS内貸出PC』等を備えています。今後も、学生の自律的な学習支援を充実させていきたいと思っております」と述べた。

クレアスは、グループワーク席や大判カラープリンタ等を備えた、新しい能動的学修(アクティブ・ラーニング)実践の場。資料作成等の設備に加え、常駐スタッフを配置するなどの支援体制を整えている。

(※)役職は取材時のもの。



犬井正学長



東孝博教育研究支援センター所長(※)

## 獨協大学父母の会入会式

4月1日、35周年記念館アリーナで獨協大学父母の会入会式が執り行われた。

犬井正名誉会長は「父母の会は教職員とご父母、保証人が連携し、在学生の学修環境、学生生活と大学の教育研究活動を支援するために誕生しました。今では、本学の発展に欠かすことのできない存在となっています」と挨拶した。代表幹事の増淵修司氏は、「父母の会の活動がご子息との良好なコミュニケーションを育み、実り多き学生生活の一助となれるよう、役員一同努力しながら父母の会の活動に邁進します」と述べた。

続いて、野間綾子副代表幹事より、2019年度の事業計画について説明がなされた。

入会式終了後には、平井岳哉キャリアセンター所長による「就活における留意点」と題した講演が行われた。



増淵修司  
獨協大学父母の会代表幹事

